

令和6年4月24日

市政記者クラブ 様

観光文化交流局名古屋城総合事務所
名古屋城調査研究センター
担当 瀬川、三矢 電話 231-2481

名古屋城への刀剣等寄贈に対する紺綬褒章伝達式を実施します

刀剣等貴重な文化財26点の名古屋城総合事務所への寄贈に対し、紺綬褒章が発令されましたので伝達式を実施いたします。ぜひご取材ください。

記

1 概要

日時：令和6年4月26日（金）10：30～10：45

場所：市長室

出席者：加藤 千博 様（寄贈者）

河村市長、観光文化交流局長、名古屋城総合事務所長 ほか

2 寄贈について

寄贈日：令和5年1月10日

寄贈品：刀剣・甲冑等26点（評価額1054万3千円）

3 主な寄贈品

- (1) 短刀 朱銘 康継（本阿弥花押） 附 梨子地 葵紋蒔絵合口 拵

徳川家康の所持刀で、尾張徳川家から明治天皇へ献上した伝承がある刀剣である。江戸時代の本阿弥家による鑑定で、家康お抱えの刀工・康継の作と極められているが、家康歿後の作とするのが妥当である。附属の拵は、徳川家伝来を物語る葵紋を散らした良質な作品で、家康所持伝承があったことから、大切に守り伝えられたことを物語っている。

- (2) 黒漆 塗紺糸素懸 威二枚胴具足 附 鉄錆地阿古陀形三十二間筋 兜

水戸徳川家10代慶篤（1832～68）が所用した甲冑である。慶篤は同家9代斉昭の嫡男で、15代将軍慶喜の兄にあたる。全躰を紺糸で威し良質な黒漆を用いて意匠を統一しており、兜には葵紋を象った前立を用いる。兜はカボチャを意味する阿古陀形の形状で、胴ともども御三家に相応しい良質な造りの甲冑である。

(寄贈品の写真)

■短刀 朱銘 康継 (本阿弥花押) 附 梨子地 葵紋蒔絵合口 拵
(伝徳川家康所持・伝尾張徳川家伝来)



■黒漆塗紺糸素懸威二枚胴具足 附 鉄鑄地阿古陀形三十二間筋 兜
(水戸徳川家 10代慶篤^{よしあつ}着用)

